

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300119		
法人名	特定非営利法人 優輪会		
事業所名	グループホームしおん		
所在地	駿東郡清水町徳倉405-6		
自己評価作成日	令和5年 3月 18日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 3月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と人とのつながりを大切にしています。
 基本的な支援をしっかりと実施しています。
 入居者からでなく、職員からたくさんの方のありがとうを伝えています。
 「ちょっとしたこと」にいち早く気付くことを大切にしています。
 家族との関わりを重視し気軽に連絡が取れる方法の提案をしています。

家庭的な雰囲気を感じて頂けるように入居者と職員の繋がりを大切にしている。入居者や家族の意見や声に耳を傾けるように努力している。施設を新築し引っ越したので、近隣との関係性も構築中である。近隣には食品スーパーやドラッグストアがあり、日常生活品の購入など困らない環境である。職員の働きやすさや入居者本人及び家族に「しおんに来て良かった」と思われるホームを目指した環境作り力を入れている。日常的に変化のあった入居者だけではなく、プラン内容や入居者の普段の生活の様子を共有、話し合うようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない ○ 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し皆で共有するようにしています	出勤時に必ず目に入る廊下に理念を掲示してある。会議の場において代表となった職員が理念を読み上げ、再認識している。内容についての理解は入社時に施設長より説明を受けている。	理念はホームが目指すケアの方向性を示したものです。入社時のみならず、入社後も具体的に理念の内容の理解の場を持ち共有することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。	施設を新築し現在の所在地となる。まだ回覧板や地域行事には参加出来ていないが、散歩で外に出た時はこちらから挨拶をするように心掛けている。地域行事の参加を含め、地域との関係を構築中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域を対象とした認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加し地域の方へ情報発信をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。	コロナ禍であり会議開催には至っていない。「しおん通信」を併設のデイと合わせ2種類を役場に渡している。今後は役場や近隣のグループホームにも声をかけ情報交換を含めた会議を行っていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や町の開催する会議には必ず参加しています。	年2~3回行われている役場主催の介護保険施設が集まる会議に、施設長が参加している。事故はなかったが、包括との連絡等で協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員への研修の実施や身体拘束ゼロ宣言を掲げ拘束の無いケアに取り組んでいます。	身体拘束ゼロ宣言のポスターをホーム入口に掲示したり、議事録の最後に拘束ゼロ宣言の一文を入れ意識化を図っている。スピーチロックや接遇の研修を実施し委員会でも行動を制限しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ研修にて予防や防止に心がけるよう認識の統一徹底をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へ研修の案内を提示したり必要な時には包括や町から説明を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず本人、家族へ直接説明し疑問の残らないようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とメールや電話で交流をもち気軽に連絡してもらえ環境作りをしています。また苦情の窓口も掲示しています。	家族とは電話やメールの他、ラインを活用し意見を伺っている。ケアに対する要望の他、実施内容や様子などもラインを利用し家族に送るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を行い意見を集約、反映できるようにしています。日々の対話を重視し個人的な意見も聞き取るようにしています。	会議を利用し職員の意見を聞き取り対応している。勤務表や日々の事など職員の要望を聞き取り改善に繋げている。職員同士で助け合い、交代で休暇を取るようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の家庭環境を考慮して勤務を組みます。個別面談の機会を作り職員の話聴けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。リモート研修のみ許可しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、中止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を解消できるよう関わりを多く持つよう努力し、情報共有を行っています。初期情報シートの活用をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	手紙や電話をするなど、近況の報告を細かくするようにしています。 メールを活用して気軽に連絡を取れる方法、関係性を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族より希望を聞き、その時どきで変わる状況にみんなで対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者がお互いに助け合える関係性を築いています。 施すのではなく、一緒に考えることができるようにしています。 利用者に対してお礼を伝える環境を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いに気兼ねなく意見を言えるような関係性作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、面会は断っています。ターミナルの方の家族は面会の制限はないです。	ターミナル期の方のみ居室での面会を継続している。知人等には事前に連絡を入れ、感染症対策に留意し面会してもらったこともあるが、コロナ禍でもあり、積極的な面会はできていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を考慮し職員が関り関係性が良好になるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話やメールなどでの連絡は利用終了後も継続して対応しています。退所後も家族が来所くださり、近況のお話をしてくれます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で良く話を聴き希望を把握できるようにしています。	家族からの聞き取りやケアの中での話しかけによる表情の変化を観察し、本人の意思や意向を汲み取っている。また生活歴や育った場所等を参考にし、本人像を推測し試行錯誤ではあるが、意向に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が生活歴や入所経緯などを把握するために個人ファイルにまとめ確認できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人のペースを大切に自立支援ができるよう現在の状況把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な情報は記録用の介護アプリで共有します。家族や本人と話し合いをして計画の立案をしています。	カンファレンスは月に1度の会議の時に合わせて開催している。管理者が職員から意見を集めケアマネジャーに報告しプランに反映させている。モニタリングも職員で話し合い管理者がまとめた物を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護用の介護アプリにて情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や入院中のお手伝いをしています。個別の外出は新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医で対応できるようにしています。	月2回の訪問診療がある。希望のかかりつけ医へは職員が送迎し、診察は家族に依頼している。家族の都合がつかない場合は管理者が対応し、希望の医療を受けられる体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常的な健康管理や相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族や入院先の医療関係者と密に連絡を取り不安がないよう対応しています。退院カンファに参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の希望に添えるようできる限りの対応をしています。状況の変化に合わせて家族や本人の希望を何度も確認して対応しています。	入居時に終末期に対する意向を聞き取り、重度化・終末期には再度意向の確認をしている。医師が今後の様子等について家族に説明を行い、カンファレンスで決まった内容を職員のグループラインにて情報共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練などで応急手当の実践をしたり、マニュアルを常備するなどの対応をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に参加し、運営推進会議でも議題であげています。職員が消防団に入団し地域の中で有事の際の協力体制を築いています。	年2回消防署による訓練指導や垂直避難訓練を行っている。災害時の備品は1・2階に分けて保管し管理者が毎月点検をしている。災害時は近隣住民がホームに避難して来ることも想定し体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声掛けや関わり方をしよう努力しています。	プライバシー保護のため居室は完全に閉じている。トイレ誘導では本人の傍で言葉をかけ、周りに気づかれないようドアを閉じ、排泄の音に配慮している。入居者個々に合わせた声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちに寄り添いご本人の思いや希望をくみ取れるよう努力しています。自己決定が得意な方には2つの物事を示してどちらかを選んでもらいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを1番に考えているため日々の業務は臨機応変に対応できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣に合った整容ができるようになっています。 本人の趣味を把握するよう努力しています。 2カ月に一度美容師を呼んでカットを実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事、調理では好みのメニューを聞いて提供できるようにしています。 新型コロナウイルス感染予防の為、準備、片付けは職員が行っています。	出来る方にはテーブル拭き等をお願いしている。メニューは決まっているが、希望を受け嗜好品や食べたい物を提供している。季節に合わせた行事食や家族からの差し入れも可能であり、楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の活動量や体重を考え提供しています。 しっかりと食量、水分量が摂取できているか確認をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指示などを受けながら毎食後個々にあった口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をして排泄の失敗がないようにしています。 一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしています。 出来る限りトイレでの排泄を促し、自立度を最大限引き出せるよう努力しています。	記録から排泄パターンの把握をしている。リハビリパンツから布パンツへ、オムツからポータブルトイレの使用へと排泄の自立を支援し、布パンツへ移行できた実績もある。尿意のない方は2時間おきに言葉掛けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録用の介護アプリの中で排泄をチェックし医師や看護師の指示のもと対応しています。自然排便を目指し運動も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望により日時を変更しながら対応しています。	週2回午前中に3人迄の入浴としている。入浴日は決めず無理強いせず入れるように心掛けている。季節感のある物や希望の入浴剤の使用も実施している。シャンプーなどの持ち込みも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧を常備して把握できるようにしています。日々の薬のセットは薬剤師が行い服薬管理は職員が行っています。管理薬剤師へ常に相談が出来る体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の状態により出来ることを生活の役割として支援できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出を中止しています。	コロナ禍もあり積極的な外出はしていなかったが、天気の良い日は、人の少ない近隣を散歩したり、ドライブでお花見へ出掛ける等工夫し取り組んでいた。今後は車椅子の方を含め近隣ではあるが外出することを計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力により家族と協議のうえ決めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節感の出るような飾りつけをしています。安全面に配慮して落ち着いて生活が出来るようにしています。	季節の掲示物は入居者と職員と一緒に毎月作成し掲示している。食事中は落ち着いて食べられる様にテレビは消している。手摺、床、換気、加湿機を利用した消毒や、食事時は距離を置き感染対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を考慮し席を決めています。自由に席を移動して会話を楽しんでいる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の好みに合ったレイアウトにし、居心地良く過ごせるように努力しています。自宅で使用していたものを居室に置かれている方も多くいます。	馴染みの使い慣れた物を持ち込んで頂いている。食器を持ち込まれた方もいる。ベッド・エアコン・クローゼット・タンスは備え付けがある。基本はベッド対応だが個々により布団を使用して過ごされている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けた物品の配置や手すりなどで生活を支えています。		